

令和2年度予算編成方針

令和2(2020)年度は、第1期中期目標期間(6年間)の5年目の年度となり、各年度の業務実績に加え、第1期中期目標の中間評価を実施する年度となる。このため、第1期中期目標の達成に向けた施策を着実に実行する必要がある。

また、総務省の公立大学に対する地方交付税に係る単位費用の引き下げや消費税増税等により、本学の財政状況を取り巻く環境は一層厳しくなることが想定される。

このことから、令和2(2020)年度は、中期目標の達成・実現に向けて効率を図りつつ、本学の強み・特色を活かすよう、以下の3点を重点項目として予算編成を行う。

1 情報学部開設に伴う関係費用の計上

情報学部開設に伴い情報学部教員17人(新規採用教員14人、準備室から異動する教員2人、地域経営学部から異動する教員1人)の人件費(152百万円)を見込む。

また、情報学部開設に必要な機器(10百万円)、備品(1.1百万円)、図書(2.5百万円)及びオンラインデータサービス費用(3.1百万円)を見込む。

2 地域連携活動

北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター及びまちかどキャンパスの事業については、これまでの事業内容を精査し、事業を展開する。

企業との連携を充実すべく産学連携事業に力を入れた取り組みを展開する。

3 施設設備の整備

以下のとおり老朽化した施設設備の更新・改修工事を実施する。

- ・4号館空調更新工事(164百万円)
- ・4号館昇降設備更新工事(133百万円)
- ・2号館福祉棟2階改修工事(20百万円)

また、本学のキャンパスの①長期的ビジョンの確立、②環境の質の向上、③建物長寿命化計画に対応する等の目的のため、以下の経費を見込む。

- ・キャンパスマスタープラン策定事業業務委託費(8百万円)
- ・建物診断、中長期修繕計画作成費用(7.7百万円)